

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科		
科目名称 [英語名称]	発達心理学 I [Developmental Psychology I]			実務経験 教員担当	○	アクティブ ラーニング	○
科目コード	750025	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	1年次
教員氏名	本田 和也			学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP1(2) DP2(1) DP2(2)		
授業概要	<p>本授業の目的は、保育者・教育者に求められる発達心理学の分野の基礎的な学びを深めることである。長年に渡る教育機関(小学校、特別支援学校等)での指導経験を活かし、本授業では、発達とは何かを捉えた上で、乳幼児期から学童期以降の段階ごとの発達を概観し、認知・行動レベルで学びを図っていく。また、子どもの発達を詳しく知るために、愛着の発達や社会性・道徳性の発達、言語の発達、学習理論、障害の支援等を、事例を通してより具体的に学んでいく。</p>						
関連する科目	履修前に「子どもの発達と現代社会」を履修しておくことが望ましい。履修後は、「発達心理学Ⅱ」を履修することが望ましい。						
授業の進め方と方法	基本的に講義を中心とし、パワーポイントや動画など多様な手段を用いて展開する。また、学びをさらに深めるために、グループによるディスカッションやプレゼンテーションを行う経験を通して、深化を図る。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達とは何か 発達とは何かの問いに対して、基礎的な知識を学ぶ。 2. 新生児の人への関心①—生得的な能力— 3. 新生児の人への関心②—大人を引きつける力— 新生児が生得的に獲得している優れた能力から、人との関係性の基盤の存在を学ぶ。 4. 人との関係の始まり—共同注意— 5. 人のかかわりの基盤①—アタッチメント— 6. 人のかかわりの基盤②—愛着障害— 人との関係性を育む基盤の発達過程を学ぶ。 7. 自我の発達—自己制御— 8. 道徳性・規範意識の芽生え 9. 思いやりと社会性の発達 集団生活を営みながら乳幼児が発達し、獲得していく能力について学ぶ。 10. 動機づけ 11. 学習の理論—条件づけ— 12. メタ認知 13. 障害と支援 発達を支える学習理論や障害支援などを学ぶ。 14. 子どもから大人へ 15. 人生の成熟・振り返り 学童期以降の発達を概観し、生涯発達について学ぶ。 						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1)人が心理的・社会的存在であるという視点から発達を考えることができる。 (2)人の発達の特異性や、発達初期における周りの人との相互作用が発達にとって重要であることを説明することができる。 (3)人の発達過程を各発達期ごとに分断するのではなく、一生にわたる連続的過程として考えることができる。 						
授業時間外の学修	<p>【予習】 授業の中で、次回の授業内容・課題などを提示するので、各自で確認したり、調べたりしておく(1時間程度)</p> <p>【復習】 配布したプリント等を基に、習得した内容を整理したり、関連する資料・図書・文献等でさらに深めたりしておく(1時間程度)</p>						
課題に対するフィードバック	毎回の授業の最後に行う「ミニ確認テスト」等は、次時の授業時間に解説を行う。	評価方法	通常の授業に臨む態度と授業の最後に行う「ミニ確認テスト」等の内容(20%)、及び最終試験(80%)で総合的に評価する。				
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリント等を配布する。						
参考書	渡辺弥生・西野泰代編(2020)『ひと目でわかる発達 誕生から高齢期までの生涯発達心理学』福村出版(2,400円+税) 関一夫・斎藤慈子編(2018)『ベーシック発達心理学』東京大学出版会(2,400円+税)						
備考							

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科	
科目名称 [英語名称]	発達心理学 [Developmental Psychology]			実務経験 教員担当	○	アクティブ ラーニング	○
科目コード	750025	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	1年次
教員氏名	本田 和也			学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP1(2) DP2(1) DP2(2)		
授業概要	<p>本授業の目的は、保育者・教育者に求められる発達心理学の分野の基礎的な学びを深めることである。長年に渡る教育機関(小学校、特別支援学校等)での指導経験を活かし、本授業では、発達とは何かを捉えた上で、乳幼児期から学童期以降の段階ごとの発達を概観し、認知・行動レベルで学びを深めていく。また、子どもの発達を詳しく知るために、愛着の発達や社会性・道徳性の発達、言語の発達、学習理論、障害の支援等を、事例を通してより具体的に学んでいく。</p>						
関連する科目	履修前に「子どもの発達と現代社会」を履修しておくことが望ましい。履修後は、「発達心理学Ⅱ」を履修することが望ましい。						
授業の進め方と方法	基本的に講義を中心とし、パワーポイントや動画など多様な手段を用いて展開する。また、学びをさらに深めるために、グループによるディスカッションやプレゼンテーションを行う経験を通して、深化を図る。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達とは何か 発達とは何かの問いに対して、基礎的な知識を学ぶ。 2. 新生児の人への関心①ー生得的な能力ー 3. 新生児の人への関心②ー大人を引きつける力ー 新生児が生得的に獲得している優れた能力から、人との関係性の基盤の存在を学ぶ。 4. 人との関係の始まりー共同注意ー 5. 人とのかかわりの基盤①ーアタッチメントー 6. 人とのかかわりの基盤②ー愛着障害ー 人との関係性を育む基盤の発達過程を学ぶ。 7. 自我の発達ー自己制御ー 8. 道徳性・規範意識の芽生え 9. 思いやりと社会性の発達 集団生活を営みながら乳幼児が発達し、獲得していく能力について学ぶ。 10. 動機づけ 11. 学習の理論ー条件づけー 12. メタ認知 13. 障害と支援 発達を支える学習理論や障害支援などを学ぶ。 14. 子どもから大人へ 15. 人生の成熟・振り返り 学童期以降の発達を概観し、生涯発達について学ぶ。 						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1)人が心理的・社会的存在であるという視点から発達を考えることができる。 (2)人の発達の特異性や、発達初期における周りの人との相互作用が発達にとって重要であることを説明することができる。 (3)人の発達過程を各発達期ごとに分断するのではなく、一生にわたる連続的過程として考えることができる。 						
授業時間外の学修	<p>【予習】 授業の中で、次回の授業内容・課題などを提示するので、各自で確認したり、調べたりしておく(1時間程度)</p> <p>【復習】 配布したプリント等を基に、習得した内容を整理したり、関連する資料・図書・文献等でさらに深めたりしておく(1時間程度)</p>						
課題に対する フィードバック	毎回の授業の最後に行う「ミニ確認テスト」等は、次時の授業時間に解説を行う。	評価方法	通常の授業に臨む態度と授業の最後に行う「ミニ確認テスト」等の内容(20%)、及び最終試験(80%)で総合的に評価する。				
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリント等を配布する。						
参考書	渡辺弥生・西野泰代編(2020)『ひと目でわかる発達 誕生から高齢期までの生涯発達心理学』福村出版(2,400円+税) 開一夫・斎藤慈子編(2018)『ベーシック発達心理学』東京大学出版会(2,400円+税)						
備考							